

2018年度 事業報告書

(2018年9月から2019年8月まで)

特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

1. 事業概要

2018年度は、①コミュニティ・レストラン事業（サロン活動、製造、グッズ販売を含む）、②子どもサポート事業 ③家庭的保育事業所【わたり家庭保育園いちごっこ】運営の3事業に加え、④陽だまり弦楽アカデミー事業を立ち上げた。昨年度の事業報告におきましても課題としていた『継続可能な事業の組み立て』を推進していくための直前準備期及び移行期となった。

次に各事業概要を報告する。

(1) コミュニティレストラン事業

立ち上げから終始当法人のポリシーである「安全で安心な健康維持食の普及」「食を通じた地域交流」を進めてきた。具体的には、①高齢世帯、独居老人宅への午後を中心としたお弁当配達、②被災地域老人会や就労支援作業施設へのお弁当配達、③体操サークル、手作りサークル等の当施設での実施、④復興住宅集会所等へ出向いてのサロン活動などの事業を遂行した。

また、地場産品を使ったスイーツや、手づくりメンバーによる製作グッズの販売を地域内外の人たちとのつながりツールとして発信を続けている。

【助成元】 年賀寄付金配分事業(2018・2019年度)

(2) 亘理こどもサポート事業

立ち上げ期より続けてきた寺子屋いちごっこを主軸に、寺子屋パーク、長期休暇学童等の活動を展開した。寺子屋いちごっこにおいては、今期も東北大学学内サークル『サークルいちごっこ』と協力し、基礎学力向上と内面的なサポートを継続して行った。今期よりスタートした寺子屋パーク、また昨期よりスタートした長期休暇学童においては、地域に適した活動にすべく試行錯誤を続けた中で、課題が明確になりつつある。それぞれの場所において、経済的事情がある家庭、内面的なケアを必要とする子ども、公教育についていけない子どもも含めた多様な子どもたちが集い、一緒に勉強をしたり、遊んだり、お話をしたりしている。

【助成元】 東日本大震災復興支援財団 子どもサポート基金(2018・2019年度)

ベネッセこども基金 2017年度災害地の子どもたちの学び支援活動助成

大和証券福祉財団 ボランティア活動助成(2017年度)

宮城県共同募金会 みやぎチャレンジプロジェクト助成事業(2017年度)

(3) 家庭的保育事業(わたり家庭保育園いちごっこ運営)

開園から半年を経過し、まだまだスタッフの資質向上が必要な時期だった。外部研修だけでなく、内部研修の充実を図った。今年4月には0歳児を受け入れ、0～3歳になる子5名をお

預かりし、“個”を大切にした“保教育”を進めている。モンテッソーリ教育を取り入れ、こども自ら育つための保育者の資質、環境整備に力を入れてきた。また地域子育て親子との交流の場を設け、地域で子育てを見守る基盤づくりに力を入れてきた。

【助成元】 JTNPO 応援プロジェクト(2018 年度)
東日本大震災復興支援財団 子どもサポート基金(2018・2019 年度)
文化庁 平成 30 年度文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)

(4) 陽だまり弦楽アカデミー・陽だまりコンサート事業

＜コミュニティレストラン事業＞の一環としてスタートした本事業。アカデミー生も集まり、独自事業として進めている。プロの音楽家や、音楽を勉強する学生たち、地域において音楽活動を行う団体による《陽だまりコンサート》を年間 3 回、2018 年 3 月にはアカデミー生を中心としたコンサート《陽だまり弦楽アカデミー・デビューコンサート》を開催した。仙南域を中心としたたくさんの方たちに音楽による癒しを届けると同時に、演奏終了後のお茶サロン開催によって音楽振興と人との交流を図ることができている。

【助成元】 宮城県文化芸術による心の復興支援事業(2018・2019 年度)
年賀寄付金配分事業(2019 年度)
宮城県共同募金会 みやぎチャレンジプロジェクト助成事業(2018 年度)

以降、事業ごとに詳細報告を行う。

2. コミュニティレストラン事業

(1) 安全で安心な健康維持職の普及

からだに優しい食事をとってもらいたいという思いをこの8年半続けてきた。町内の高齢世帯や独居老人宅へ毎日1個でも配達する活動を行ってきた。

助成金があつてこそできる活動だが、継続していくためにはどのように進めていくか大きな課題がいつもついて回る状況が続いている。当方のお弁当がなければ施設に入所するしかない、という声も受けている。地域内外のケアマネジャーが集まる会合にて、お弁当の紹介もさせていただいてきた。「需要と供給」、「資金調達とスタッフの労力」などなど、さまざまな側面から活動を見直ししていかなければならない状況にある。

<アートキッチン>を開催した。テーマを決め、そのテーマの下臨床美術・スイーツ等のクッキング教室を開催。手づくりの美術、メニューを堪能した。3月を一つの区切りとし、また違った形で参加型のアートクッキングを開催できたらと考えている。



【アートキッチンの様子】今回のテーマは“いちご”

(2) 被災地域老人会や就労支援作業施設等へのお弁当配達

手づくりをモットーとしたお弁当は、多方面において利用していただけるようになった。一般お弁当配達などの対応やスポット的にいただくご注文に対応しながら、継続できる(1)の事業課題を賄うことができないか模索が続いている。

(3) 体操サークル、手づくりサークル等の実施

食事に集まった仲間たちが、あるいは復興住宅集会所にて開いていたサロン仲間が、当施設に集まり、自主活動としてサークル活動を行っている。地域や復興住宅・団地ごとの集まりに偏ってしまう傾向がある。そのような中で、「どこの誰が来てもいいんだよ」と声を掛け合いいろいろな地域からいろいろなご縁がつながり、当施設に集まって活動を続けている。

西日本豪雨災害の後は、「被災した自分たちをたくさんの方たちが支えてきてくれた。自分たちも何か作って送りたい」と、200個の手づくり毛糸ほうきをつくり、メッセージを添えて岡山に送らせていただいた。《支援物資はただ送っても相手の迷惑になるだけ》という気持ちから、なかなか送り先とつながることができないでいたが、当法人を継続して応援くださる岡山の方の橋渡しにより、総社市社会福祉協議会に受け入れていただくことができた。みなさまが少しでも気持ちを軽くすることができるよう祈っております。

また地域の方たちが集まる場としても活用いただいた。春の避難訓練、夏祭り、秋の芋煮会と被災地から移り住む住民との新たなコミュニティづくりの場となっている。



【地域住民による夏祭りの様子】



【親の会の集まりにも使っています】

(4) 復興住宅集会所等におけるサロン活動

一昨年度開催していた《おらほの食卓》。そこから形を変えて、地域住民自ら運営していく《楽々茶のみ》が定着してきた。2018年3月までは、当法人の運営の下、住民の方たちの多大なる協力をいただく形で進めてきた。今後どのように続けていくか話し合った。その結果、同年4月からは各地区長さんのご協力もいただき、地域住民による運営として継続活動している。地域住民であるからこそ分かり合えること、伝えあうこと、笑いあえることが多々ある。またその中に、学生たちも交え交流活動を当法人としてコーディネートしてきた。娘のような孫のような子供たちと交流することで笑顔が広がった。

また、学生たちにとっては人とかかわりあうことの大切さを、身をもって感じ、幅を広げるきっかけとなっている。



【高崎健康福祉大学 被災地研修】



【互理 Home Coming Dayの様子】地域内外交流の場となっています



【被災地の今を聞く研修に集まった高校生たち】研修後は当方のお弁当を囲んで交流会を開催

3. 亙理こどもサポート事業

(1) 亙理こどもサポートセンター「寺子屋いちごっこ」（以下、「寺子屋」）

会期中合計 79 回（上半期 48 回、下半期 31 回）開催し、のべ参加人数 1289 名が参加し、学習に励んだ。

① 上半期(2018年9月～2019年3月)

昨期に引き続き、1 グループ制にて週 2 回の開催として寺子屋を継続した。小中学生の登録数は計 20 名(小学生 3 名、中学生 17 名、3 月 31 日時点)となっている。

小学生の部では、昨年に引き続き国語・算数を軸に学習を進めている。また、寺子屋の一番の魅力である「大学生との交流」を通じた社会性の向上の取り組みとして、終了 10 分間交流の時間を設けている。こどもたちの間で工夫・試行錯誤した遊びも行い、ここでも子どもの自主性と積極性を大切にしている。

中学生の部では、昨期から引き続き英語・数学を軸に、2 タームのうち 1 タームはテキストを用いた学校での既習内容の復習を、もう 1 タームは各自で持って来た課題に対するフォローを行なっている。通学する学校やクラスにより、進度は異なるが、それぞれのペースに合わせて学習を進めた。また、中 3 生 5 名全員がそれぞれ志望校に合格し、4 月より新たな場所での学校生活をスタートさせている。

② 下半期(2019年4月～2019年8月)

上半期と同様に 1 グループ制、週 2 回の開催として新学期の寺子屋をスタートさせた。小中学生の登録は計 18 名(小学生 2 名、中学生 16 名、8 月 31 日時点)となり、全体の人数は減少となった。学習内容も引き続き、小学生は国語・算数、中学生は英語・数学を中心に学習を進めている。中学生は数学において、今まで使用していたテキストに加え、子どもたちから要望が多かったワークを補助教材として使用している。

小学生は新たに小学 3 年生を 1 名迎え、学習を進めている。学年が上がったからか、全体的に学習意欲は高く、こちらからの促しなしでも自分から進めていけるようになった。また、学習が終了した後、引き続き大学生との交流の時間を設けている。この時間が楽しみで来ている子どもも多い。

中学生は学年ごとの“カラー”が色濃く表れるようになってきた。3 年生は受験生ともあってか、一番学習意欲が高く自ら進んで学習に取り組む。2 年生は思春期特有の悩みや愚痴

などが多く、それらの発散度合いで学習への取り組み度が変わってくる。1年生はまだ小学生の気持ちが抜けず、新しい学校リズムや学習内容、進度に慣れることで精一杯というように見て取れる。こういった細かな状況を把握できるのはスタッフだけでは難しく、協力関係にある東北大学学内サークル『サークルいちごっこ』のメンバーの尽力あつてのことである。

【実施概要】

毎週月・木 小学生 18:00～18:50、中学生 19:00～20:50

【実施回数(単位：回)および参加人数(のべ人数、単位：人)】

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上半期	回数	6	8	9	6	7	7	5	48
	小学生	8	13	18	13	12	14	9	87
	中学生	105	126	140	88	106	105	69	739
	学生ボラ	21	22	35	23	20	23	11	155
		4月	5月	6月	7月	8月			計
下半期	回数	6	7	8	6	4			31
	小学生	10	10	10	8	5			43
	中学生	90	94	114	76	46			420
	学生ボラ	15	22	19	11	8			75

【世帯内訳(単位：世帯／人)】

世帯内訳	合計 (世帯／人)	一般 (世帯／人)	被災 (世帯／人)	ひとり親 (世帯／人)	特例 (世帯／人)
上半期(2019. 3. 31 時点)	17／21	7／7	5／7	3／3	2／3
下半期(2019. 8. 31 時点)	16／18	7／7	5／6	1／1	3／4

(2) 放課後における学童的要素を含む居場所「寺子屋パーク」

立ち上げ当初より、「寺子屋いちごっこ」において主に小中学生の学習サポートを行ってきた。現在寺子屋いちごっこに通っている子どもたちは、寺子屋いちごっこへ通わせることができていること、保護者の送迎があることなど、家庭に余裕がある家庭が通っている。当法人としては上述以外の子どもたちへの学習サポートや集える場所を作りたいとかねてより考えていた。そのような場所を今期では「寺子屋パーク」として展開した。

① 上半期(2018年9月～2019年3月)

上半期では週2回、町内2地区3箇所の地域集会所および公的施設において、小学生から高校生までを対象とし、学習サポートおよび子どもたちと大学生との交流の場として開

催した。小学生の下校時間に近しい 16:30 から開始し、18:30～19:00 頃までは小学生が、その後部活が終わった中高生がこの場所にくることを想定していたが、中高生の参加は少なく、小学生の参加が大半を占めた。小学生としては学校でも、家でもない第3の遊び場として楽しんでいたように見えた。

② 下半期(2019年4月～2019年8月)

下半期では町内1地区1ヶ所、週1回において開催した。上半期の実施において、小学生と中高生を同じ空間で学習をすることは難しいと考え、時間帯で分けての開催方法に変更し、開始を上半期から30分ずらし、17:00 から 19:00 までを小学生、それ以降を中高生とした。中高生の部活後の参加は思っていた以上に難しく、部活が休みの日やテスト週間での参加が主であった。

【実施概要】

上半期：毎週水・木 16:30～20:30 計48回開催

参加人数：延べ452人



【寺子屋パークの様子】

(3) 長期休暇における小学生の学童的要素を含む居場所「いちごっこスクール」

昨期より、亘理町子ども未来課との協力にて長期休暇中の待機児童の解消事業として、いちごっこスクールを開催している。今期は夏休みの「サマスク」の他に春休みの「はるスク」も開催した。「はるスク」では学校における年度をまたいだため、新年度からの参加の児童が多かった。「サマスク」では定員いっぱいの参加があった。参加した児童は長期休暇中の課題に取り組んだのち、当方施設を中心に遊びやワークショップなどをして過ごした。参加者からの満足度は高く、昨期からのリピートの参加もいた。しかし、スタッフの人員確保という課題があり、ボランティアとして参加する学生もテスト期間や年度の変わり目等の理由から確保も難しい。次期開催にあたり、人員確保が急務となっている。

【実施概要：はるスク】

日時：3月25日～4月5日の平日10日間 9:00～12:00

参加人数：のべ14人(登録人数3人)

【実施概要：サマスク】

日時：7月22日～8月23日の毎週月・水・金12日間 9:00～16:00

参加人数：のべ101人(登録人数10人)

(4) その他事業

① 交流イベント

下記の日程で今期も4度開催した。ありがたい会までは寺子屋いちごっこに通う子どもたちやその卒業生・兄弟や友人の参加が主であったが、Welcome Party!からは寺子屋パークに通う子どもたちとも一緒に開催し、より幅広い交流の場となっている。

日程	イベント名
2018年10月29日	ハロウィンパーティ
2018年12月20日	クリスマスパーティ
2019年3月23日	ありがとうの会
2019年6月8日	Welcome Party!

② 勉強会&交流会「Study & Play(スタプレ)」

今年度は夏期休暇中に5日間、春期休暇中8日間開催した。いちごっこスクールとの同時開催や毎週開催していた寺子屋パークに参加していた小学生も参加し、例年以上に参加人数が多くなった年になった。春期・夏期双方において県外の大学生が被災地研修として訪れ、町内に住む子どもたちとの交流の場となった。

【開催概要】

開催日：(春期)3月25日～4月3日 13:00～17:00、(夏期)8月5日～9日 13:00～17:00
参加人数：のべ206人

③ ポニーキャンプ in 互理

今期で7度目となるポニーキャンプを今期も公益財団法人ハーモニイセンターの協力に開催した。昨期と同数の19名の小学生が参加し、ポニーのお世話や乗馬体験などを通じて、自然・動物・ともだちへの思いやりや自発性(自分で考え行動する)、協調性を育む機会となった。また今回、地域の方々と交流できるプログラムも組み込み、ポニーだけでなく、地域とのつながりを持たせたイベントとなった。

【開催概要】

開催日：7月20日～22日
参加人数：19人
企画運営：公益財団法人ハーモニイセンター

4. 家庭的保育事業(わたり家庭保育園いちごっこ運営)

(1) こども一人一人の“個”を大切にした保教育

こどもを取り巻く環境は目まぐるしく変化し続けている。そのような中でも、『こども一人一人の個としての尊厳を大切にしながら、慈しみをもって、見守り育んでいく』ことをスタッフ一人一人が十分理解し保育に当たらなければならない。保育の充実のためには『保育者の資質向上を図らなければならない』と研修を積み重ねてきた。“個”を重んじる教育の一環として“モンテッソーリ教育”を取り入れた。その教育に40年以上かかわってきた先生に1から学んでいるところである。『“個”を重んじる教育』が言葉にとどまらず、保育生活全体の中でどのように実践していくか、学びが続いている。



【モンテッソーリ教具棚】



【庭園も整備されました】



【ポニーとのふれあい】

(2) 地域子育て親子、地域社会とのかかわり

『第一義的責任は保護者にある』ことは確かですが、こども育ては善意ある地域社会の中で行われることで、豊かさを増している。その具現化として、当園に通うこどもたちだけではなく、地域の子育て親子とともに育ちを分かち合う活動が必要であると考え事業を組み立ててきた。具体的には次の通りである。

① わらべうたと文学あそび

- ・ 宮城わらべうたの会 武石麻弥先生においでいただき、月1回定期的に開催
- ・ 同じく家庭的保育事業を運営する家庭保育よちよちのこどもたちも参加し交流
- ・ 広報誌等で呼びかけ、地域親子をはじめ年配の方も参加（毎回20名ほどが参加）

② 人形劇 どむならん

- ・ 家庭保育よちよちと連携し、地域のお寺の協力を得て実施（63名参加）
- ・ 夏休みに入る前日の午後だったこともあり、小学生や放課後デイサービスに通うこどもたちも参加
- ・ 間近で人形劇を観劇する貴重な体験を地域の中で実現

③ 地域に開けた活動

- ・ 前年度、宮城県共同募金会のご支援をいただき図書の充実を図る
→ 地域親子、保育事業所に貸出するための準備を進める
- ・ 当法人の隣接地のミニ公園化を図るための準備を進める

- 震災後、被災地からたくさんの方たちが近隣に移り住む状況の中、地域の中に子育て親子が交流する場がない
- 幼児のみならず子どもたちが自由に遊ぶことができるスペースを造る
- 当園に通う子どもたちも、地域の子どもたちと、のびのび遊ぶことができる環境の整備



【宮城県芸術飛行船】音の遊園地



【どむならん人形劇団】



【よちよちさんと芋ほり大会】

【わらべうたと文学あそび】

5. 陽だまり弦楽アカデミー・陽だまりコンサート事業

「衣食住足りることが人の幸福ではない。心の平和を得ることが幸福である。」

震災による支援コンサートなどが、時の経過とともに減少してきている。だんだん寂しくなってきたねという声も聞かれる。いつまでも支援に頼るのではなく、自分たちの力でこの田舎でも芸術を楽しみ、心を豊かにできる環境を培っていきたいという思いで立ち上げた。

宮城県芸術協会音楽コンクールヴァイオリン部門、オーケストラ〈仙台音楽弦団〉を立ち上げるなど精力的に音楽活動を続けていらっしゃる菊池恭江先生のご協力をいただき、当法人は【陽だまり部門】を立ち上げることができた。

今期、アカデミーデビューコンサートも含めて4回のコンサートと地域イベントに参加。計5回の演奏会を実施した。今季最後のコンサートにおいては、終了後お茶会を開き、演奏者や地域交流を図ることができた。

弦楽アカデミーは、毎月2回実施。8名のこどもたちが参加した。また、コンサートを開催する中で、「おとなのアカデミーがあったら参加したい」という声に応え、6月から月1回3か月間の無料体験レッスンを開催し、延べ17名が参加した。

アカデミー生が成長し、地域に自主的音楽素養が備わっていくことができるよう活動を展開している。

(1) 陽だまり弦楽アカデミー

- ・ 月2回、講師2名の下、山元町地域防災センターひだまりホールを主会場として開催
- ・ 3月、〈デビューコンサート〉を実施 100名を超える方たちに演奏を聴いていただく
仙台弦楽アカデミーの協力をいただき、アカデミー生たちはアンサンブルの醍醐味を体験させてもらう
- ・ 7月、〈笑顔まつり〉にお招きいただき演奏する
- ・ 同まつりにて楽器体験コーナーを設置 17名の地域の方にヴァイオリンを身近な楽器として試奏していただく
- ・ 〈おとなの弦楽アカデミー〉立ち上げ準備を進める



【アカデミーデビュー
コンサート】



【楽器体験コーナー】



【コンサート終了後の
反省会】

(2) 陽だまりコンサート

- ・ 地域の音楽活動する団体にも出演していただき、地域に根差したコンサート活動としてきた
- ・ 2月開催コンサートにおいては、コチシュ・クリスチアン氏によるプロのピアノコンサート

を開催（好評につき、次年度以降も開催を計画）

- ・コンサート前には、楽器体験の時間を設け、ヴァイオリンをより身近に感じてもらう志向を凝らす
- ・「ゆっくりとコンサートの余韻を楽しみたい」、「家で一人で過ごすことが多い」、「出かけるきっかけになっている」などの声から、コンサート終了後のお茶会を本年度最後のお茶会から実施



【コチシュ クリスティアン ピアノソロ】



【地域音楽活動団体による
オカリナ演奏】



【こどももおとなも楽器体験コーナー】



【コンサート終了後の交流会】